



プロジェクト名称

## いくべっ！福島支援プロジェクト

プロジェクト活動概要

東日本大震災から約3年半が経過し、少しずつ復興の目処が立ってきているが、まだ時間がかかるのが現状である。特に福島県は放射線量という目に見えないものを相手にしており、他県と比較しても復興の遅れが顕著である。また福島県の農家の方々は放射線量を下げるために様々な努力や工夫を行っているが世間には広く知られていないのが現状である。このことが、市場に出回っている福島産の食品は安全であるのに、一部の消費者に嫌悪されてしまう原因の一つとなっている。

そこで私たちは風評被害にスポットを当てて、消費者に正しい情報を発信していき、消費者と生産者の橋渡しを行っている。具体的には、様々なイベントに参加し福島産のものを販売しながら呼びかけを行ったり、自分たちで企画した福島ツアーを実施するなどしている。

また、震災の記憶の風化防止ということも目的の一つとして活動を行っている。被災地にはまだ避難生活を余儀なくされている方や、支援の手を必要としている方が沢山いるが、震災から長い時間が経ち日常的に震災に関するニュースを聞くことが少なくなってきた。そこで講演会や展示会の開催などして、一般の方にも再度震災を覚えてもらうための機会を提供している。そして、「福島は震災のあった場所」というイメージを払しょく出来るように、福島の優れている点などを発信するような活動を行っている。

活動状況報告&amp;活動写真など 活動期間：2014年10月1日～12月31日

○浜風商店街視察 10月11日

私たちは「福島の今」を知るために浜風商店街を訪問した。この商店街は福島県久之浜にある仮設商店街で、食堂や電気屋、駄菓子屋などのお店と並んで震災に関する展示ブースが設けられている。

私たちはまずその展示ブースで震災直後のお写真や資料を見せていただいた。それと並行して、語り部の佐藤さんに震災当時の状況や、現在進められている防災工事などについてお話を伺った。震災を通して得られた教訓や、先人の知恵、住民の方々の明るく前向きな姿勢を知ることが出来た。



＜展示ブースにてヒアリング＞



＜海岸にてヒアリング＞



その後、海岸の方まで歩いて案内していただいた。住宅地を抜けると急に視界が開け、海岸の前は空き地が広がっていた。現在は防波堤の内側に防災樹林植えるための工事が行われていた。改めて、津波の被害がいかに甚大であったかを痛感した。



<久之浜の海岸の様子>



<防災緑地の工事について>

また、住民の方々は自分たちで住みやすいまちづくりをするため、大学の教授などを呼んで講義会などを開いているそうだ。積極的な取り組みがまちの復興を推し進めている様子が窺えた。

この活動を通して得られたことは、今後の「福島復興」を考える上で重要である。また、これからもこのような現地調査を重ね、住民の方々のニーズに応えられるような取り組みをしていきたいと考えている。

#### ○復興庁訪問 2014年10月15日

10月15日に、本プロジェクト初の試みとして、赤坂にある復興庁の本庁を訪問し、話をうかがった。話をしてくださったのは復興庁の広報担当の方で、復興庁の取り組みや被災地の現状について丁寧に、詳しく説明してくださった。

復興庁の方の話によると、同じ被災地といっても、福島県は岩手県や宮城県より遅れているという現状があり、原子力発電所事故による風評被害は3年半以上たってもなお残っているそうだ。風評被害の改善はやはり難しい問題のようで、その取り組みの一環であるマルシェがたまたま新宿で行われていたため、復興庁訪問の後マルシェにも立ち寄った。

マルシェには福島県の名産品がたくさん並んでいて、規模は違えども、私たちの活動に近いものがあると感じた。また、当時の復興大臣も訪れており、あまり大規模でないマルシェにも力を注いでいることがわかった。



<復興庁にて>



<復興庁での説明の様子>



<マルシェの様子>

今回の訪問は、勉強機会が少ない私たちにとって大変有意義なものとなった。復興庁の方も、復興に関係した取り組みを行っている大学生と関わる機会はありません。私たちの活動に非常に興味をもってくださった。立場は全然違うけれども同じ目標を掲げ活動しているもの同士、今後も関わりをもっていければと考えている。

#### ○芝浦祭 2014年10月31日～11月2日

今年も芝浦祭に参加し、屋外の屋台スペースで展示会と物販を行った。

物販ブースでは、会津、中通り、浜通りの各地域で有名なお菓子やジュースを販売した。幅広い世代の多くの方に味わっていただき、深刻な品切れもなく、準備した商品は3日間を通して完売した。また、購入してくださった方には笑顔ポスターのモデルもお願いした。

さらに、今までの活動で得た情報を多くの方に伝えたい、という思いがあり、今回は初めて展示会にも挑戦し、観光地や名産物の紹介や現地で行われているエネルギー事業、久之浜視察、復興庁訪問などについてのポスターを展示した。実際に見て聞いてきた自分たちだからこそ伝えられる事柄や、理系大学生が興味を持ちそうな題材を選び、色や文字の大きさまでこだわってメンバーが工夫してポスター制作に取り組んだ。屋外での展示会ということもあり呼び込みには苦戦したが、それなりの数の方に展示物を見ていただけた。アンケートとして福島の影響や展示会の出来栄などへの意見を伺い、個人個人様々な考えがあることを知った。貴重な意見をたくさんいただいたので、活動へしっかり生かしていきたい。



<販売風景>



<会場の様子>



事前の準備不足で屋外での展示会と物販になり、会場づくりや天気の心配等もあったが、3日間大きなトラブルもなく無事やり遂げることができた。情報発信は本プロジェクトの活動でも重要なもののひとつであるため、今回の反省を次へとつなげていきたい。さらに、芝浦祭のようなイベントでは多くの来場者の方と交流でき、福島により関心を持ってもらう良い機会であることを再確認できた。

#### ○学生プロジェクト交流会 11月26日

今回、年明け前最後に行った活動として、「学生プロジェクト交流会」というものに参加させていただいた。このイベントは、私たちと同じく、学プロ（アジア・石垣）に所属している二人が中心となって開催されたもので、その目的としては二つあり

- ① 学プロ同士の交流を深め、そこから各グループが今後の活動を行っていく際のきっかけや連携づくりを行うこと
- ② 学プロの知名度を上げるためのパンフレットづくりの打合せ等

ということのために行った。また、第一回開催の今回の参加グループとしては、「石垣島を元気にするプロジェクト」「アジア学生とのサステナブル共同提案8」「笑顔のまち なこそ復興プロジェクト」「団地サテライトラボ」と私たちの5団体であった。

第一部では、それぞれの団体がプレゼンを行い、他団体やご参加いただいた先生方の意見や感想をいただくという形で進めていった。第二部では、自由に交流する機会を与えてもらい、お互いに質問をした。



<プレゼンの様子>





このような学プロ同士の交流の場は、今まで活動してきた中でなかなかなかったものであり、貴重なものであった。というのも、

- ・他団体の発表を聞くことから、活動の視野を広げることができたこと
- ・自分たちが発表をした後に、他団体や先生方からの評価をいただけたことにより、今後の活動をどのようなものにしていくかの、参考にすることができること

各学プロが行っている活動はそれぞれかなり異なっていることから、はじめは参考になることが少ないのではないかということも思っていたが、終わった後に、上記のようなことを得ることができた。

今後はここで学んだことをいかして、他団体との交流を深めて活動していきたいと考えている。また、学プロの知名度を上げていくことも今後必要であることであると考えているので、パンフレットづくりなどのような活動に協力していきたい。

## 今後の活動計画、目標、意気込みなど

---

### 今後の活動計画

今後の活動は、来年度に向けて活動のさらなる発展の模索や現地視察などを通しての情報収集が中心となる。具体的に今までの活動の軸は「風評被害の低減」と「震災の記憶風化防止」であったが、これからの福島を担っていくのは若い世代の人たちであるので、「若い世代へ繋いでいく」これを大きなテーマとして掲げた。また、それを達成するためにどのような活動や取り組みを行っていけばいいか、今後の現地調査やメンバー同士でのミーティングで深めていく。

また情報発信については、現在私たちが活用している FaceBook、Twitter、goo ブログをもっと活用していく他に「いくべっ！福島支援プロジェクト」の HP を開設し、今までの活動を通して得られた情報をイベント時だけの限定的な発信ではなく、いつでも発信できる場としてインターネットをうまく利用しようと考えている。